

心理学的な支援と応用演習(発達心理学)

単位数

履修方法(授業形態)

配当学年

2単位

SR(演習)

1・2年

担当教員

平川 昌宏

■授業のテーマ

発達支援の基本的な視点と方法を理解する

■授業の目的

発達支援の基本的な視点について発達心理学の知見に基づきながら理解し、アセスメントや実際の支援において求められる枠組みや態度について検討する。

■授業の到達目標

- 1) 発達支援やアセスメントの基本的な視点について説明することができる。
- 2) 発達支援のプロセスと各プロセスでの留意点について説明することができる。
- 3) 発達検査や知能検査の特徴、および、これらを発達アセスメントや支援に生かすための留意点を説明できる。
- 4) 「豊かな発達とは？」という問いに対して、暫定的な答えを出し、「語る」ことができる。

■授業の概要

発達に特別な支援ニーズのある子どもに対しては、当該児の現在のそしてこれからの「生きづらさ」について、本人の特性や取り巻く環境の特性さらにはその関係性についてアセスメントを行いながら、継続的に支援を行っていくことが求められる。その際、具体的なアセスメントや支援の技法についての理解だけではなく、発達のプロセスやそのメカニズムについての理解、さらには、それぞれの持つ「発達観」(「豊かな発達とは?」)について支援を通して問い直していく姿勢が大切であると考えられる。この授業では以上の観点に立ちながら、発達支援におけるアセスメントや支援の基本的な視点や方法について理解を深める。また、支援事例について検討を行うことで、上記の理解をより確かなものにしていくと同時に、それぞれの「発達観」について交流・検討していきたい。

■スクーリング事前課題 (学修時間の目安: 8~10時間)

- 1) テキストの p10~p25を読み、ここで紹介されている障がいの特徴や困難さについて基本的な理解をしておいてください。さらに、YouTube などの無料動画サイトにおいて、これらの障がいの当事者もしくは家族がしばしば動画をアップされています。各障がい名などで検索を行い、幾つかの動画を見ておくようにしてください。
- 2) テキスト p43の表3-1で挙げられている発達検査・知能検査についてインターネットなどで調べ、その特徴や概要について理解をしておいてください。
- 3) 皆さんのこれまでの経験や実践、学びをふまえ「豊かな発達とは？」という問いに対する皆さんの暫定的な答えを考え、説明できるようにしておいてください。

■スクーリング授業計画

| | 授業の内容 | 授業の方法 |
|---|--------------------------|--------|
| 1 | 発達支援の基本的概念とその視点 | オンデマンド |
| 2 | 「障がい」の捉え方と基本的理解 | オンデマンド |
| 3 | 臨床発達支援の展開① アセスメント | オンデマンド |
| 4 | 臨床発達支援の展開② 支援計画の立案・実施・評価 | オンデマンド |

| | 授業の内容 | 授業の方法 |
|----|------------------------------|----------|
| 5 | オンデマンド授業の補足と対面授業のガイダンス | 対面(リモート) |
| 6 | 知能検査・発達検査の実際 | 対面(リモート) |
| 7 | 知能検査・発達検査を発達アセスメントや支援に生かす | 対面(リモート) |
| 8 | 集団・生活場面における発達支援① アセスメント | 対面(リモート) |
| 9 | 集団・生活場面における発達支援② 支援の実際 | 対面(リモート) |
| 10 | 発達支援と保護者支援① 保護者のアセスメントと支援の基本 | 対面(リモート) |
| 11 | 発達支援と保護者支援② 支援の実際 | 対面(リモート) |
| 12 | 全体のまとめ | 対面(リモート) |

■レポート課題

| | |
|----------------|---|
| スクーリング 事後課題 | 授業の到達目標を念頭におきながら、授業における学びの成果について詳細に論じてください。 |
|----------------|---|

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

授業の内容の中で、あなたにとって「学べてよかった内容・検討できてよかった内容」について2点あげ、それぞれについて以下3点について論述するようにしてください。

- 1) それぞれの内容について説明してください。
- 2) それぞれの内容がなぜ「学べてよかった・検討できてよかったのか」について、これまでの学びや経験・実践などを挙げながら詳細に論じてください。
- 3) それぞれの内容を今後の実践や人の理解・関わりにどのように生かしていけるのか、さらに生かしていく上でさらにどのような学びが必要と考えるのかについて詳細に論じてください。

■評価の方法・基準

事後レポート (40%)・演習への取り組みと理解度 (60%)

■参考文献 (*印=大学から送付される必読図書)

- * 1) 市川奈緒子・岡本仁美編著 2018 『発達が気になる子どもの療育・発達支援入門』 金子書房
- 2) 本郷一夫編著 2008 『子どもの理解と支援のための発達アセスメント』 有斐閣
- 3) 山崎晃・藤崎春代編著 2017 『臨床発達心理学の基礎』 ミネルヴァ書房
- 4) 辻井正次編著 2014 『発達障害児者支援とアセスメントのガイドライン』 金子書房
- 5) 大島剛 他 著 2013 『発達相談と新版K式発達検査—子ども・家族支援に役立つ知恵と工夫』 明石書店

その他授業中適宜紹介する。